

## ■少子化対策に向けた出会いの機会の創出について

### ○質問要旨

少子化の進行は深刻である。出生数は本県においても、昨年は2万2,497人とこの3年の間に約4千人も減少しており、少子化に歯止めがかかっていない。

県は、危機感を持って、結婚支援にも踏み込んだ取組を行うべきであり、結婚支援は、個人の問題を超えて社会全体で取り組むべき課題であるとする。

この11月30日に、市町の賛同を得て、「ふじのくに結婚応援協議会」を設立し、結婚支援のセンターを本格稼働することとしており、結婚を望む人が最適な相手との出会いを見つけるために、県が自らサポートに乗り出したことに、私は大いに期待している。

結婚を望んでいる人の中には、これまでに異性との交流が少なかったために、結婚へのアドバイスが欲しいと感じている方や登録をためらう方もいると思う。県が運営することの安心感と信頼性をPRし、登録者を増やすことともに、登録者のニーズに合わせて結婚に有効な様々な仕組みも工夫していただきたい。

そこで、県は、「ふじのくに出会いサポートセンター」において結婚希望者の利用登録をどのように促進し、どんな取組を行っていくのか、伺う。

### ○答弁

伊藤議員にお答えいたします。少子化対策に向けた出会いの機会の創出についてであります。

県では、少子化の主な要因とされる未婚化、晩婚化に対応するため、若者の「適当な相手に巡り合わない」あるいは、「会えない」という声に応え、結婚を希望する若者に出会いの機会を提供する「ふじのくに出会いサポートセンター」を、来年、正月明け早々、1月10日に開設いたします。

本格稼働は4月からになりますけども、より多くの若者に参加していただけるように、1月10日から会員登録を開始いたします。また、SNSや各種メディア等による周知もいたします。そして、県内各地で相談会も開催いたします。それだけでなく、安心して利用できるサービスであることが重要です。そこで、登録に当たりましては、独身証明書等の書類、面談による本人確認、そして、個人情報厳正な管理を徹底いたします。

センターが提供するマッチングサービスでは、時間や場所を選ばず、スマートフォン等からお相手の検索やお付き合いの申込みができるほか、コロナ禍の影響を受けることなくオンラインによるお見合いができるシステムを導入いたします。利用者の利便性を最優先にしたサービスを提供することとしています。

また、専門の相談員が、お一人おひとりに合わせて丁寧にアドバイスを行うほ

か、交際を始めたお二人が結婚後の生活を具体的に思い描くことができるように、将来の生活設計の相談にも対応していくこととしております。

さらに、先程、御紹介いただきました「ふじのくに結婚応援協議会」を、市町の賛同を得て設立いたしました。協議会を通じまして、広域での婚活イベントを実施いたします。そして、出会いの機会を増やしてというところでございます。また、市町が独自に行われている結婚支援の取組を、登録者の居住地に応じて情報発信するなど、行政ならではのサービスも提供してまいります。

県といたしましては、若者が結婚して家庭を持つことに憧れを抱き、良きパートナーを得て本県で充実した人生を送ることができるよう、市町はもとより、企業、また団体にも協力の輪を広げながら、オール静岡で結婚支援に取り組んでまいります。

なお、その他の御質問につきましては、副知事、関係部局長から御答弁申し上げます。

## ■パラスポーツ普及に向けた情報発信について

### ○質問要旨

この夏に開催された東京 2020 パラリンピックにおいて、日本勢は金 13、銀 15、銅 23 の計 51 個のメダルを獲得した。中でも本県関係選手の活躍は目覚ましく、特に陸上競技の佐藤友祈選手や水泳の鈴木孝幸選手、ボッチャの杉村秀孝選手、初出場の杉浦佳子選手が金メダルを獲得し、日本が獲得した金 13 個のうち 6 個を本県関係選手が占め、全体では、11 競技に 15 人が出場し、9 競技で 13 人が入賞した。

本県関係選手をはじめとする全てのパラアスリートの活躍は、新聞やテレビでも大きく取り上げられたこともあり、人々にたくさんの感動と勇気を与え、パラスポーツへの注目が集まり、関心が高まっている。

私自身も先日、開催された「静岡県パラスポーツ運動会」では、静岡県議会チームの選手として、ボッチャや車いすポートボール競技に参加し、仲間と一緒に競技する楽しさや体験して分かるパラスポーツならではの面白さに、あらためてパラスポーツの素晴らしさや魅力を感じた。

パラスポーツに参加することで、社会に多様性があることを自然と理解できるようになり、誰もが気軽に楽しめ、手軽に練習もでき、コミュニケーションの向上や一体感の醸成にも繋がると考える。

パラスポーツが盛り上がっている時に、火を消すことなく、社会に広げ繋げていくことが必要なのではないか。

もっとたくさんの方に、パラスポーツの素晴らしさや魅力を感じてもらうためには、パラスポーツの普及に向けた情報発信に力を入れるべきであると考え

るが、県として今後どのように取り組んでいくのかお伺いしたい。

## ○答弁

パラスポーツ普及に向けた情報発信についてお答えいたします。

東京パラリンピックにおける本県選手を含む日本勢の大活躍により、パラスポーツは、これまでにないほど注目を集め、認知度を大きく高めました。こうした関心の高まりを一過性のものとしなないため、多くの方々にパラスポーツの魅力を理解していただくための取組を進めてまいります。

まずは、今回のパラリンピックで大活躍した選手や、選手などに参加していただいております「静岡県障害者スポーツ応援隊」により、小・中・高校あるいは特別支援学校等を対象に、実技指導や講演会を開催してまいります。パラアスリートが、児童、生徒の皆さんと直接交流することで、パラリンピックやパラスポーツの魅力を発信に取り組んでまいります。

また、御紹介をいただきました先月開催した「パラスポーツ運動会」は、コロナ禍により、会場に多くの人々を呼ぶことができない状況の下での開催ではありましたが、県内メディアの御協力やイベントに参加した若者のSNS等を通じた情報発信により、多くの県民の皆様幅広く実施状況をお伝えすることができました。

今年開催いたしました、誰でも気軽にスポーツを体験できるイベント「ニュースポーツふれあいフェスタ」では、パラスポーツ種目であるボッチャ競技を初めて取り入れたところであります。今後につきましても、障害のある方もない方も、一緒にスポーツに親しむことができる機会の創出に努めてまいります。

さらに、スポーツ局のSNSにおきまして、パラスポーツ関連の情報発信を行うとともに、県内のアナウンサー等で構成する「ふじのくにスポーツサポーター“Shizu9（シズナイン）”」によりまして、スポーツイベント等に関わる情報をテレビやラジオ、SNS等を通じて発信していただくなど、広く県民の皆様にパラスポーツの魅力を伝えてまいります。

今後も、県障害者スポーツ協会や競技団体等と連携し、県民の皆様がパラスポーツの素晴らしさや魅力を感じていただけるよう情報発信に努め、これによりましてパラスポーツの理解促進と普及に向け、今後も全力で取り組んでまいります。

以上であります。